（三十日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價〔壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵稅十錢〕
廣告料〔雜報欄行五十錢　場所指定二十錢增〕
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所　磐城新聞社
電話五六四番

全國禁酒大會に臨みて（三）

鈴木積善

翌十日は午前八時より直ちに協議が行はれ、議案は二三ノ否決を見たのみで大體各委員の報告通り決定された。協議案の內容はこれを要約すれば左の三項となる。一、郷土の禁酒化、二禁酒教育及徹底、三、禁酒律法の達成即ちこれである凡そ矯風改善の事業の如きは各自の自覺に俟たねばならぬことは贅言を要しない官僚的天降り式の運動は形式的に數量的には花々しく行はれ得るも、內面的實質的には空虛に流れ易く、從て熱と力とを缺くの虞れがある。特に幾多の誘惑壓迫と戰はねばならぬ禁酒事業の如きは愛國的熱情と宗教的信念より迸る各自の強き覺醒と其の自覺せる幾多の同志の堅き團結とが肝要である。換言すれば各自の自覺徹悟とその覺めたる協力とを必要とする　この意味に於て津々浦々の各郷各村に堅實なる小禁酒團体の勃興を急務とする。即ち各家庭が禁酒化され各郷土が禁酒化されねばならぬ。次に禁酒教育の普及徹底であるが主として小學校兒童並に中等學校生徒に對してである北海道の某禁酒會に於ての調査によると一萬人の兒童中八千人は酒害の何たるかを全然知らざるものにて、判然と「惡きもの」となせるものは僅か四人である。又父親の飲酒がその愛兒の酒害論によりて止めた例は尠くない。けれども又或る小學校には某名士の禁酒講演の後その擔任教師が生徒に向ひ「あゝはいふものゝ其の實行は實際困難で又酒そのものはそれ程大問題はない云々」と放言した事實もある。茲に於て青少年禁酒教育の必要が起り、此大會に於ても「小學校及中等學校の教科書中[illegible]故審査[illegible]讀本を參らし禁酒教育をなさしむることを文部省に建議する件」「男女青少年に對し禁酒教育の徹底を期するため中等學校及び小學校に於て禁酒講演を公開せしむるやう文部當局より地方長官へ內達されんことを文部大臣に建議することの協議案が可決された

講談

闇に閃く男達

(76)

高田涙川作
尾崎雪鷹畫

寢首をかゝん

正春の物語るを聞き事情はよく分つた

「ヘエ、左樣でございましたかどうも不思議な御縁で二度までもわつちの宅へた立寄り下さるといふは有がてゑ、またその上先生の御門人金五郎殿に劍道の稽古を受くるといふのはよく〳〵の因緣でございませうとも角おいそぎの旅でなけりヤサきたねね宅ではございますがどうか當分ご逗留下さいませ」

藤兵衞は正春に謝意を表した

「イヤ、その厚意は忝ない然は拙者も江戸へ參る用向をいそぎをりあまり長く[illegible]もなすわけに參らねど金五郎のことも心にかゝればそれでは兩三日滯在さして貰はう」

石川正春は藤兵衞方に逗留することゝなつた。けんくわに負けて逃げ歸つた小兵衞の方では品川の敬次を始め負傷した浪人組子分一同が集つた。

「どうも皆の衆御苦勞だつた考へて見りやアどうも殘念で殘念で仕方がねナー二今度のけんくわは九分九厘までこつちのものと思つゐたのにあの金五郎といふ小僧上りと聞きア若州小濱の浪人石川とかといふやつがとびこんできたばかりに惜いけんくわを負けてしまつた此儘泣き寢入にしちヤア小兵衞はこの鶴見でめしが喰へねつゐては敬次の兄弟も顏をつぶされてしまつたどうでもこうでももう一度けんくわの仕直しをしなけりやアならねしかしそれについちやアあの金五郎と石川といふ浪人がゐた日にやアとてもぢやねえが勝てる見込はねえナア敬次さうぢやねわか」

小兵衞は敬次に相談をもちかけた。

「いかにも小兵衞兄貴のいふ通りだ先づ第一に野郎二人をばらしてしまはにアけんくわができねえからその分別をしてくんねえ」

敬次も同じ思ひの正春と金五郎には弱つてゐる

「そのことよ敬次何かいゝ分別はなからうか」

小兵衞敬次を初め島田左京その他の連中が額をあつめて相談をこらした

「小兵衞兄貴こうしちやアどうだツイ五六年前の櫻時にためねと一緒に向島へ櫻見にいつたことがあるだらうその時に今上野の廣小路で町道場を開いてゐる澁川流の柔道の先生佐久間武太夫が門弟六七名と飲めよ唄への大亂痴氣騷ぎその末通る女を捕へて無理難題そこへ現れたのは木更津藤兵衞の身內の者と石川正春といふ武士であつたそしてその正春といふやつが武太夫を始め門弟共をとつて投げそのまゝ歸つたことがあるこの佐久間といふ浪人にうまくふきこみ相談をすりヤア満更相談にのらねえこともあるめね佐久間にたのんで二人をばらしてしまヤアまさか木更津一家に敗ることはあるめえ」

敬次が又も浪人を推薦した

「フムさうだそんなことがあつたやうだしかし敬次とても一筋繩で行く野郎ぢやねえやりそこなちやア今度こそはわらじをはかなくちやアならねねぞ」

小兵衞は再三の失敗になかく〳〵大事をふんでゐる

「だが兄貴暗夜のつぶては防ぎかねるといふことわざもある通り一夜中に野郎の所へ此の連中で忍び込み寢こみをおそへばわけはねね野郎がどんな腕利きでもだましうちにやア叶ふめね」

「なるほどそれは上分別だ寢首をかくは卑怯のやうだがこの場合せひもねねそれぢやア敬次ご苦勞だが手めえこれからすぐにその佐久間といふ先生にあつてくんねえ」

「よし引受けた兄貴いつてくる」

敬次は子分の五六名をつれ直に江戸へ向つた。

龍虎相搏つ短期特別大興行

熱狂的フアンの御熱望に迎へられ
超絶名畫再三の出現、第八藝術の
典型、千古不滅の大帝王篇を見よ

『修羅王』（幕末大捕物帖）

監督……池田富保
助監督……清瀬英次郎
進行係……西村治三郎
撮影……松村清太郎
進行係……築山光吉
舞臺裝置……安井幸次郎

……（配役）……

山縣龍次郎	河部五郎
早繩重吉	大河內傳次郎
矢代傳五郎	尾上多見太郎
山縣左治馬	兒島三郎
有原剛三	新妻四郎
島田主馬	桂武男
青柳丑之助	市川市丸
錦木傳藏	谷崎十郎
松川織部正	實川延一郎
小梅淀五郎	中村仙之助
山縣治左衞門	尾上卯多五郎
伊村小彌太	嵐珏松郎
小安清之進	嵐龜三郎
醫者宗傳	嵐璃左衞門
花房清三郎	葛木香一
地獄の吉藏	尾上華丈
桐田彌四郎	岡崎晴夫
幸澤彌七	市川百之助
安木藤九郎	尾上鶴五郎
箱屋喜六	尾上桃華
重吉の伜金次	中村英雄
藝者千代香	酒井米子
同花江	櫻木梅子
重吉女房た絹	澤村春子
左治馬の妻お八重	小松みどり
お米婆	松本靜枝
た吉	村瀬輝子
八房の傳吉	市川正之助
早川慶次	尾上蝶次郎
千草幸藏	隼秀人
築城三五郎	市川左雁次
安村十郎	嵐岡若
菊田藤兵衞	淺見勝太郎
佐伯作之進	尾上松昇
梶村勘十郎	川田弘道

來る三日より

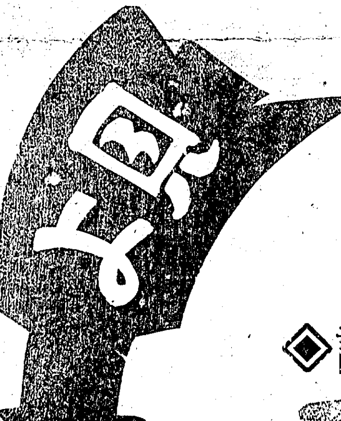
三日間

◈幕末大捕物奇譚◈

浪人？直參？今宵も三つの魂は消ゑた、到幕の犧牲は三ツ増したわ、我等の滿願は近づいて來るのだ、寄るなツ、寄れば村正の鍔が鳴るぞツ、觸れば汝の魂は消ゑるぞ……

說明　石井孝

◇春季名畫大會◇



高評超絕!!
到る處噂話題!!
一世の耳目
此處に集る!!
名畫!
再來の時!
陽春の異彩!

阪東妻三郎　映畫
ハロルドロイド　映畫

◆時は奢侈隨華の美なりし文化の時代が生める旗本代表的デカタンと神出鬼沒の

くも　全十五卷

大盜が深謀術策を凝らしての爭鬪何れが捷つか何れが敗るか、阪妻映畫の白眉

說明……石井孝

◆パテー社名畫、原名『くよ〳〵するな』
助演　ジヨビナ・ラルストン孃

巨人征服　全六卷

映畫のうちに、美と笑と詩を求めんとする人々の爲に此一篇が作られた事を忘れ給ふな

說明……南桃華

日活松竹高級映畫

平館

電四六六

評判の芳しくない

市場での石城米

是非とも改良をせねば

地方の一大損失

石城に於ける米價の春安は既報の如く一駄（四斗入二俵）廿三圓五六十錢では手放し兼ねるも無理がなく到る所に在米がダブ付いてゐる當地米本年の下落には

現下の不景氣に加へて中央に於ける一般需用家に氣受が惡くなつた爲で原因は乾いた後の風味が乏し舌ざわりの荒組にあるらしい特長は喉炎ふわがあると云ふのみで商人側からは粉形から色澤に至るまで朝鮮米に酷似し乾燥その他調製の如きは寧ろ鮮米のそれに劣ると云ふ點からも自然容足が鈍く此種の物は近年以相方面の生產も多くなつたと云はれてゐる同

地米が斯の如く劣評を受くるものは品種の大部分が愛國種で現在の鮮米も元來が內地愛國種を改良されたもので原種を同じくする處へ朝鮮のそれが異數の發達を見せつゝあるに反し當地方の產米改良が遲々として進まざるものあるか乃至は地味及び氣候等の關係によるものらしく其近い對例を擧ぐれば隣縣茨城並に宮城の

愛國に此非難あるを見ても明らかで指導當局に充分の研究を煩はしたいと唱へられてゐる

湯本に本部を置き

殺人犯人探查

被害者は朝鮮人土工

渡邊怪死体後報

石城郡渡邊村新田坂地內の洞窟內にあつた怪死体は昨報の如く撲殺遺棄されたことは

解剖の結果確定したので縣警察部では湯本町三函に搜查本部を置き縣警察部と搜查部との間に直通電話を通じて鯉淵警部補が總指揮官として平、植田兩署並に縣刑事課の刑事八名が加害者檢擧に大活動を開始したが被害者の人相を見るく朝鮮人土工らしく勿來町の炭礦に働いてゐたものではないかと目下身元

調査を急いでゐるが搜查本部では炭礦に働いてゐる者で仲間喧嘩の上撲殺され遺棄されたものと見込んでその方面に搜查の手を擴げてゐる

人間相互無限責任（一）

於入山立國自治會總會席上

本多いはらき新聞社長講演要旨

天長節の佳辰に當り我がいはらき新聞社と關係の淺くない御當地の諸君と親しく御話しする事の出來る事は私の光榮とする處であります、此の好機會に私は「人間は相互に無限の責任を有するものである」と言ふ事を御話し仕度いと思ふ會社の社員であり株主である以上誰れしも其會社の發展を希望するのは當然であります。先ず私は此宇宙に住んでゐる全人類社會は一つの大きな會社である、そして私等個々の人間は其の會社の社員であり株主であると考へて居ります。全人類を株主とする私の言ふ會社は通常の會社と異つて無限責任である、そして誰れでも此の會社の株主になれる然しながら會社である以上株主になるには拂込をしなければならない普通の會社は資本となる金を拂込むが私の此の人間相互會社は一体何を拂込むかと言へば「働き」即ち此の働きが人間相互會社の株主になる唯一の資格要件であり誰れでも株主になるには働きを提供しなければならない

然し働きとは何んぞ、何んの爲めに働くか何んの目的で働けば此の人間相互會社に入社が出來株主となれるか。不平を言ひながら働らいてゐる人々は何んの目的で働らいてゐるかと聞けば「生きる爲めに働くんだ」と答へるでせう、何故生きる爲めに働くのか先ず生きるのには食物も要し衣類も要すそして住む家も要だそれにはどうしても金がなければならない、金を取る爲めには働かなければならない働くのは嫌だが生きられないから生きる爲に働くのだ」と不平を言ひながら嫌々働らいてゐる、其れなら働けば生きられるか、働らいてゐても死ぬ時には死ぬのです、愉快に出來る筈の働きを此んな不愉快な氣分でするといふのは其の最初に當つて働く目的を誤まつてゐるからの事です。

働くと言ふ事は生きる爲めではなく眞の目的はお互に互を生かし合ふ爲でなければならない、即ち自分も生き他も生かす或る場合には他を生かす爲めに自分を犧牲にしなければならない「生かし合ふための働き」此れが私の言ふ人間相互會社の株主であり此の目的か資本なのであります、生かし合ふ爲めに働くと言ふ信念が出來れば先ず第一に不平がなくなり働くと言ふ事が愉快になり自然と此の信念が強まるに連れて腹が据る樣になつまらない他からの誘惑にも乘らないで本當に意義ある働きが出來る

何事でも最初の目的は大切でありますが殊に此の働きに對しては其の最初の目的の樹しかた一つで一生を樂しくする事も出來得れば不幸に導びく結果ともなるのです　（續く）

筆劍合同の

觀櫻會

尼子亭で盛會

平裁判所、警察署、在平日刊新聞記者の合同觀櫻會は二十八日午後六時より松ケ岡公園尼子亭に於て開催したが出席左記の如く非常な盛會であつた

（才判所側）遠藤豫審判事窪田檢事、三笠檢事（稅務署）岡部署長（警察署）猪狩署長、片寄、伊藤警部補、伊藤、渡邊、本田齋藤、佐々木、橋矢田、吉田各部長（記者側）橫山吉田、佐藤、樋田、蓮沼柏木、村上、渡邊、半谷八代、榎本、田村、岡田川崎、坂本　（以上）

春のシーズンを迎え

石城の運動界

庭球界の向ふを張り

野球界意氣健昂

石城郡地方は愈々春のシーズンを迎ゑスポーツ界も久しい冬眠から覺めて漸く多事ならんとしてゐるが東北の庭球王國と言はれてゐるだけ庭球熱の旺盛さは野球其の他各種の運動競技の比でなく殆んど庭球萬能を想はせる程の勢で進んで來たが

過般創立された磐城庭球協會は更らに內容の充實に努め一大飛躍を試みるべく計劃中であり協會に加盟した郡下十數の有力庭球俱樂部の如きも一段との猛練習を加へ檜舞臺たる明治神宮競技會に優勝を目差して奮鬪する事となつたが庭球熱に幾分壓迫されて野球は多數の愛好家を有しながらグラウド

其の他の關係で發展も比較的遲々たるものであつたが中等實業野球リーグ戰加盟の各チームは今年から野球リーグ戰を定期に決行するは勿論東都各大學野きう團其の他一流野きう團から選手の派遣を求めて猛練習を加へ庭きう同樣やがては野きう王國を建設せんと計劃中であるが庭きう野きう共もに昨年を境として今年からは一大飛躍期に入つたものと觀られてゐる

平分會宣誓

平在郷軍人分會では二十九日の天長節の佳き日に午前十時から縣社子鍬倉神社々前に會員全部集合過激思想撲滅の宣誓を行ひ數臺の自動車に分乘して市內に宣傳ビラを撒布した

七週年記念懸賞平舘の特別割引

讀者優待券明日夕刊より刷込み

桂庵と古物商を

嚴重に取締る

不景氣が生む諸事件

平署で根絕の方針

平警察署では人事周旋業者並に古物商の取締を嚴重に行ひつゝあり若し不都合な事があれば

苛責なく檢擧する方針をとつてゐるが、不景氣の結果やむなく娘を苦界に身を沈める者が殖いて來たのを好機に毒牙を磨き惡手段に依つて他人の子女を餌に詐欺を働く者が增加したのと之も不景氣が祟つて突盜を働く者が殖えその雜品を賣却するのをねらつて法外もない安値段で買占むる古物商が多くなつて來た、かうした事は惡桂庵の手にかゝつて苦界に身を

沈め自分も知らない多額の借金に泣く者を救ひ雜品の賣買を嚴重に取締るる結果は竊盜を少くする事になるので今後益々嚴重なる取締をなす事になつたのである

社告

營業部員　一名

廿才以上卅五才以下の活動家を至急募集す本人履歷書持參午前中來社あれ

磐城新聞社

入山炭礦の

自治會總會

きのう盛大に

入山立國勞働自治會の春季總會は既報の如く天長節の佳辰をトし廿九日午後一時から湯本町三函座に於いて開會したが當日は特にいはらき新聞社々長本多文雄氏の「人間相互無限責任」と題する別項の如き約一時間半に亘つての講演あり次いで會員の家族慰安會に移り各種の餘興あつて午後五時閉會したが出席會員一千餘名に及び非常に盛會であつた

郡南青年劍道

きのう植田公園で

植田警察署管內各町村青年劍道大會は二十九日午前九時から植田町八幡公園に於て開催されるが出場申し込劍士は百餘名で當日は武道會植田分會の優勝旗爭奪戰を行つた

鼻のクスリ　チクノール錠
痔の最高內服藥　ダイサン錠
平町五丁目角
山野邊藥局

夫ある娘を囮に

親父が前金詐取

金は取り身体は返さず

遂ひに告訴沙汰

平町新田町人事周旋業滑川敏之輔は湯本町字辰之口鈴木嘉市（五三）同人長女當時埼玉縣忍町字行田居住鈴木ナミ（三〇）の兩名を相手取り詐欺橫領の告訴を此の程平署に提起したがその內容は嘉市は去る大正十五年中滑川から百五十圓を前借しナミを藝妓見習に住み込せたが其の後一ケ月程經てから一寸實家まで歸へして下さいと家を出たまゝ歸らないのでナミを返へす樣に再三督促したが嘉市は言を左右にしてラチが明かず調べた所ナミには當時埼玉縣忍町行田久保木豐松（三〇）と言ふ夫がありナミは夫の家に歸つた事判明したので百五十圓の前貸しを請求したが此れまた更らに返す意志がない樣子なので遂に前記の告訴に及んだものであると

創業七週年記念に

嶄新な二つの大懸賞

興味の中心に立つ此の方法

幸運者は三千圓當選

本社七週年記念事業の一なる懸賞は愈々左の方法により執行する事と致しました、曩きに發表した『寶探し』に代る最も嶄新な愛讀者各位に對し一般的の興味ある方法を選擇いたしましたから御吹聽の上精々奮つて當選の程を御願ひ申上ます。

△第一の懸賞

◇方法　五月一日發行夕刊（五月二日附）本紙第二面全紙中「漢字の誤字が何字あるか」をハガキに書いて本社懸賞係り宛て御出し下さい

◇締切　五月三日締切り當選者は五月五日夕刊に發表（正確に當てた方が多數の場合は在平日刊有志記者立會抽籤の上當選者一名を決す）

◇懸賞　當選者には割增金三千圓附復興債券十圓券一枚を贈呈（外に平町五丁目山野邊藥局寄贈の副賞）

△第二の懸賞

◇方法　五月三、四の兩日に限り平町活動常設平館で興行する特別大映畫會の入場者にして本紙刷込みの（五月一日夕刊より刷込み）割引券を持參入場した方に限り入場の際福引番號券を差上ます

◇抽籤　抽籤は三日、四日の兩日共午後九時半同館に於て觀衆中より三名を立合はせた上執行し當選者毎晚三名を決定します

◇懸賞　一等割增金千五百圓附復興債券五圓券一枚（二等）價格三圓位の物品（三等）價格一圓五十錢位の物品を贈呈致します

磐城新聞社

物騷な話は南町本通りから川岸通りに毎ばん追はぎが出るといふ事だ、それが粉箱を出た鼠のように黑い顏へ白いものをナスリつけておまけに墨黑々と引き眉毛氣の弱いものは一目で震ひ上がるさうだ、それを又退治にでかけて追ひはがれて來る勇士もあるとは勇ましくも馬鹿らしき事共なり

◆

それが往來にまで戰線を擴張して通る人をつかまへて遠からん者は音にも聞けと名乘をあげるのだから近くば寄つて目にも見たものは大がい生氣を拔かれるそうだ、尤も支那料理で肉饅頭を出すのは當り前の眞ン中だと或學者がいつたとの事だ誰れだイ妻子かマンヂウの暖かな蒸し立てのホヤ〳〵を喰べたいものだなんて言つたのは。

廣告

赤心堂病院

平町田町通り
磐城病院
電話一一四番

祝創刊七週年

石城郡山田村
安島重三郎

石城郡植田町
金成通

石城郡植田町
古川傳一

石城郡植田町
山崎登

山崎合名會社
山崎與三郎
山崎清三
平町　電話一〇

東部電力株式會社
平營業所
所長　武田精一

三井自動車部
三井富吉